



事故に遭わない、起こさない！

秋の全国交通安全運動街頭キャンペーン 9月21日

9月21日、午前7時30分から市内本宿交差点と宗道十字路の2カ所で、交通安全運動の街頭キャンペーンが行われました。

この街頭キャンペーンは、9月21～30日の10日間、秋の全国交通安全運動が実施されることに先立ち行われたもので、下妻警察署の協力のもと、市内交通団体などの関係者約120名と下妻一高野球部員26名が通勤するドライバーに交通安全グッズを手渡ししながら、交通安全を呼び掛けました。

下妻一高2年生で野球部主将を務める秋葉涼太さんからは「僕たちは明るい未来をつくるために、交通ルールを守り交通安全に努めることを誓います」と力強い決意表明がありました。



交通安全を通勤ドライバーに呼び掛けました

市民の憩いの場をきれいに

下妻市スポーツ少年団「奉仕活動」 9月10日

市民の憩いの場となっている小貝川ふれあい公園のスポーツゾーン周辺で、下妻市スポーツ少年団の奉仕活動が行われました。早朝から同団員など約350人が集まり、スポーツゾーンや土手沿いのごみなどを拾い集めました。

スポーツ少年団は、スポーツを楽しむ、社会活動などを通じて協調性や創造性を養い、社会のルールや思いやりのこころを学ぶとともに、地域社会の活性化に貢献する活動をしています。

同団で本部長を務める柴崎清一さんからは「子どもたちの健全育成を願い、地域に貢献しようと毎年、多くの団員が奉仕活動をしている。団員や保護者などの交流の良い機会となっているので、今後も続けたい」と話が聞けました。



ソフトボール場のごみを拾うスポーツ少年団

□に広がる炊きたての新米の香り

下妻産新米まつり 9月23・24日



下妻産の新米を試食する来場者

収穫の秋を迎え、「下妻産こしひかり」のPRと「地域ブランド米の確立」を目指して、収穫したばかりの下妻産新米を味わってもらおうと市内大園木の「やすらぎの里しもつま」で9月23・24日の両日、「下妻産新米まつり」が開催されました。

会場では、「コシヒカリ」と「ミルキークイーン」の炊きたてがそれぞれ試食で提供され、食べ比べた新米が、その場で1キロ単位の希望量で買えるとあって「つきたて販売」が人気を集めていました。同会場ではローズポークの試食も行われ、市内外から訪れた多数の家族連れなどでにぎわいました。

千葉県野田市から夫婦で訪れた60代の男性は「下妻産のお米は香りがよく、おいしい。ローズポークとの相性がバッチリ」と話してくれました。



力強い投球をみせるシモンちゃん(9月2日、牛久運動公園野球場)

スピードガンコンテストで下妻市をPR

プロ野球2017イースタンリーグ公式戦茨城シリーズが9月2日に牛久市、3日に土浦市で初開催。北海道日本ハムファイターズと千葉ロッテマリーンズが対戦しました。

試合前の地域交流イベント「7自治体職員スピードガンコンテスト」では、参加自治体のマスコットや選手が並ぶ中、下妻市からはイメージキャラクターのシモンちゃんが直接投球。記録は時速61キロと会場の笑いを誘いながらも、10月21日・22日に砂沼サンビーチで開催される「しもつま砂沼フェスティバル」をしっかりとPRしました。

市では、筑波大学や北海道日本ハムファイターズ、県南西地域の自治体、団体と共に産学官民公連携によるスポーツを通じたエリアマネジメントプロジェクトを進めています。両日の試合には、市内野球少年団の子どもたちなど500人が招待され、高道祖ヤングタイガースの樽逸心さん(小学6年)は「プロ野球の選手は体が大きくて、球がとて速かった。また見たい」と笑顔でした。今後は、Waiwaiドームしもつままでのスポーツ教室や食育などのイベントも企画される予定です。

火の粉舞う炎の奇祭

大宝八幡宮・タバカンカ祭 9月12・14日

火の粉を浴びると火の災いを免れるといわれる炎の奇祭「タバカンカ祭」が9月12日と14日の両日、大宝八幡宮で行われました。

この祭は、約640年前に敷地内で起きた火災を暁と鍋蓋で消し止めたという故事を戯曲化した祭として受け継がれています。

白装束姿の若者がたいまつを振り回しながら境内を駆け回ると参拝者からは歓声があがりました。14日には、テレビの取材班も訪れ境内は一層盛り上がりました。

つくば市から訪れた60代男性は「インターネットの映像よりも、本物は火の粉が舞い、炎の熱さを感じられ、迫力がある。まさに奇祭だ」と話し、祭の風景をカメラに収めていました。



火の粉が舞い歓声上がる会場

山野草

凝縮された自然の美しさ 秋の山野草展 9月23日～25日

下妻市自然愛護協会が主催する「秋の山野草展」が、小貝川ふれあい公園ネイチャーセンターで開催されました。

白い花をつけるアケボノソウや濃紫色の花を複数つけたサワギキョウなど秋を彩る山野草の鉢植え約300種類400鉢が来場者の心を和ませました。

春の山野草展にも来場したという、つくば市の60代女性は「ツルコケモモがきれいな実をつけてかわいらしい。秋の展示も珍しい種類があって楽しめる」とずらりと並ぶ鉢植えを鑑賞していました。



秋の山野草を楽しむ来場者

地域で伝える 伝統の舞

大宝八幡宮・十二座神楽奉納 9月15日

関東最古の八幡さまとして知られている大宝八幡宮で秋の豊作に感謝する秋の大祭が開かれ、神楽殿で十二座神楽が奉納されました。巫女装束に身を包んだ大宝保育園の女兒4人が、太鼓、小太鼓、笛の音に合わせて厳かに舞いました。

十二座神楽は市指定無形文化財で、起源は明らかではないが、室町時代の境内図に神楽殿が記載されていることから、古い歴史がうかがわれます。

日上市から訪れた60代男性は「下妻市の文化に初めて触れました。巫女装束が色鮮やかで伝統と格式を感じる」と話し、舞を楽しんでいました。



長寿の秘訣を話す飯田さん

末永い健康と長寿を

末永い健康と長寿を 9月15・19日

敬老の日になみ、稲葉市長は9月15・19日の両日、平成29年度中に100歳以上になる市内長寿者宅や介護施設を訪問し、長寿を祝福しました。

市内で100歳以上になる方は、8月1日現在で39人。稲葉市長は、お祝いの言葉とともに祝い状や記念品の毛布を手渡しました。

市内最高年齢の飯田さん(原・107歳)は自らネクタイを締め、スーツに着替え笑顔で「毎日食事もしっかりとって、自分のことは自分でしています。ぜひ東京オリンピックを見に行きたいと思っています」と話してくれました。それに対して市長は「オリンピックを見て県内最高年齢になることを期待しています」と話しました。

有料広告欄